

IV 海外学生派遣

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-05-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子, 松田, 紀子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010076

IV 海外学生派遣

熊井 浩子／松田 紀子 他

国際交流センターでは、在校生の海外留学を推進するため、『静岡大学からの海外留学』（海外留学に関するガイドブック）を作成・配布するとともに、25年度から4月の新入生ガイダンスの際にセンターニュース及び「静大からの海外留学」（海外留学パンフレット）を配布している。併せて、過去の留学プログラムやイベント等の参加者のメーリングリストやHP・電子掲示板等での募集情報やイベントの紹介等も行っている。この新入生への広報が功を奏し、海外留学フェア、TOEFL勉強会等や、夏季短期留学などに1年生の参加が増加している。

派遣に関する主なイベントとしては、海外留学フェア（留学説明会）、夏季短期留学説明会やTOEFL説明会・勉強会などを開催し、留学についての情報提供や語学学習のサポートを行っている。さらに、国際交流課（静岡キャンパス・共通教育A棟4階）及び国際交流センター資料室（浜松キャンパス・合同棟1号館3階）に、各国別の最新の資料を提供する棚を設置し、派遣留学やTOEFLに関する情報提供を行うほか、27年度前期は帰国報告会も開催し、留学希望者への情報提供に加え、留学経験者自身が留学を振り返り、その成果と新たな目標を確認する機会となっている。

交換留学に関しては留学前指導にアカデミックイングリッシュ（全2回）を実施したほか、TOEFL団体受験を年4回にするなど、英語力の面でのサポートも強化している。また、派遣予定先の協定校関係者が来訪した際は、留学予定者との懇談会を開催し、ネットワークづくりのサポートや情報提供を行った。

25年度後期に初めて実施した春季短期留学（イギリス・中国）は3回目を迎え、このうちイギリスに関しては、26年度より、本学の単位を認定できるよう、カリキュラムを整備した。また、27年度より、フランスの夏季・春季短期留学プログラムを開始した。

26年度に静岡大学が日本エマージェンシーアシスタンス株式会社によるOSSMAの会員となり、26年度後期以降国際交流センターの留学プログラムで留学する場合は、この個人会員となることを義務づけている。併せて、26年度に日本エマージェンシーアシスタンスの協力を得て進めてきた本学危機管理マニュアルを全学的な立場から見直すなど、いっそうの危機管理体制を整えている。

主な派遣プログラム及び活動は以下の通りである。

1. 大学間協定に基づく交換留学

平成28年度には以下の13大学28名の学生が大学間協定に基づく交換留学生として選考され、28年度3月及び8月～10月に留学を開始している。括弧内は、当該学生の所属学部を表す。なお、派遣学生中、募集条件を満たした13名の学生が、JASSOの海外留学支援制度（協定派遣）の助成（月額平均7万円）を受けたほか、静岡大学国際交流基金その他、ほとんどの学生が学内外の基金等の支援を得ることができた。このうち、ルーマニア・アレ

クサンドル・イワン・クザ大学は、今年度より始まったEUのモビリティプログラムであるエラスムプラスの支援を受けた留学である。

28年度交換留学派遣者数はほぼ例年通りであるが、韓国の協定校への派遣学生が5名に増加したことが今年度の特徴である。また、ブルガリア・ソフィア大学、ラトビア・リガ工科大学にコンスタントに学生を送ることができるようになったのも特筆すべき点である。さらに、インドネシアのガジャマダ大学に2年連続で派遣できたこと、カナダ・アルバータ大学への派遣が復活したこと、理系を中心に大学院生の留学が増えたこと、さらには中国からの留学生の派遣が2件であったことも新たな傾向であると言えるであろう。

アメリカ ネブラスカ大学オマハ校 3名（教育学部2名・理学部1名）

カナダ アルバータ大学 1名（人文社会科学部）

チェコ マサリク大学 2名（人文社会科学部）

スロバキア コメニウス大学 4名（人文社会科学部・教育学部各2名）

ブルガリア ソフィア大学 3名（人文社会科学部・情報学部・工学部各1名）

ルーマニア アレクサンドル・イワン・クザ大学 2名（総合科学技術研究科工学専攻）

ドイツ ブラウンシュバイク工科大学 1名（総合科学技術研究科工学専攻）

ヴッパータール大学 4名（人文社会科学部2名、情報学部・総合科学技術研究科情報学専攻各1名、）

ラトビア リガ工科大学 2名（工学部・総合科学技術研究科工学専攻各1名）

インドネシア ガジャマダ大学 1名（人文社会科学部）

韓国 慶北大学校 3名（人文社会科学部2名、人文社会科学研究科1名）

釜山大学校 1名（人文社会科学部）

朝鮮大学校 1名（教育学部）

交換留学に関しては、選考後には派遣前に全3回の留学前ガイダンスを実施し、留学前の準備や危機管理等に関する講義、留学経験者や協定校からの留学生も招いたディスカッション等を行うことにより、学生自身が主体的に準備に取り組めるような機会を提供しているほか、OSSMAによる危機管理ガイダンスも実施した。

また、平成26年度からは報告書に加え、留学前から留学後のキャリア形成も視野に入れた留学ポートフォリオ作成を義務づけるなど、留学を次のステップに結びつけるための指導を行っている。

さらには、テロ等が発生した際に、安全に対する注意喚起や安否確認を行い、危機管理にも努めている。

2. ILUNO (Intensive Language Program at the University of Nebraska at Omaha: ネブラスカ大学オマハ校集中語学プログラム)

平成28年度アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校における集中語学プログラムにILUNOに13名（人文社会科学部5名、教育学部5名、教育学研究科1名、農学部1名、理学部1名）が参加した。そのうち、10名は協定に基づく96週分の授業料免除枠での参加である。な

お、2月16日に渡航前ガイダンスを実施した。

また、平成29年度募集に先立ち、7月28日にはILUNO説明会を実施し、情報提供に努めた。

3. 平成27年度春季短期留学

国際交流センターでは、提供する短期の語学留学プログラムの選択肢を広げ（渡航先、設定期間）、既存の短期留学プログラムと運営面、内容面で異なる形式のプログラムを提供することを意図して、平成25年度より、春休みにイギリス・中国での短期留学を開始したが、これに加えて27年度より、フランスの夏季・春季短期留学プログラムを開始した。それぞれのプログラムの概要は以下のとおりである。

① イギリス、サセックス大学短期語学研修

A) 実施概要

期 間：平成28年2月19日(金)～3月21日(月) (32日間)

研修機関：イギリス サセックス大学 (University of Sussex Language centre, UK)

費 用：約50万円

参加者数：9名 (情報学部3名、工学部4名、理学部2名)

渡航前ガイダンス (3回)：12月3日、1月14日、2月12日

英語コース：

履修期間は4週間、サセックス大学のIntensive English コースにおいて履修する英語の授業時間は60時間 (1.5時間×10クラス×4週間)。コース開始時にプレースメントテスト (筆記、口頭) を受け、レベル別にクラスに配置される。

プログラムの特徴：

- 自由形式の留学：(基本) 午前中授業+ホームステイ (オプション) 午後、週末の活動は大学が推奨するツアー会社等のプログラムを利用し各自が選択、手配
- グループ派遣の安心感を確保しながらも、集団行動を減らす→ひとりひとりが英語の環境にふれる機会を増やす。
- 課外活動の選択を個人の自主性に任せる。→文系、理系、各自のニーズ、個人の趣味や興味を反映したプログラム設計が可能。
- 自分で考え、何をするかを決め、行動をする機会を作る。→自主性と判断力を育てる。

B) 成果と課題

終了後に参加者を対象にしたアンケートでは「プログラム全体」に関しては、回答者8名中7名が「どちらかといえば満足」もしくは、「満足」と答えた。プログラム参加者の全体的なプログラムに対する満足度は、高かったといえる。一方で特に「ホームステイ」に関しては、前年度までと比べて評価が低かった。サセックス大学が大学寮もホームステイも手配できなかったため民間のホームステイ業者を利用したが、環境に多少問題があるホストファミリーがあり、滞在先を変更する学生が出たことなどが影響している。サセックス大学の国際交流課、留学課、ランゲージセンター、それぞれの担当者と宿泊先の手配について協議をしたが、留学生が急増する中、いくつかの大学寮を再建中のため、宿泊先の

手配が難しいという結論であった。次年度は、新たな宿泊先が見つからなければ派遣する大学の変更を視野に入れて検討が必要である。

② 中国 北京華文学院短期語学留学

A) 実施概要

期 間：平成28年2月28日(日)～3月19日(土)

研修機関：北京華文学院

費 用：19万7330円

参加者数：0名

B) 春季短期語学留学の課題

27年度は、申込者が1名のみで最少催行人数に達しなかったため、中国春季短期留学は中止となった。北京華文学院の春季短期留学は、15名の人数で約20万円の予算となっており、中国の他大学の同じ時期・期間の短期留学と比べて内容も語学研修に加えて、文化体験、観光など豊富で、値段もリーズナブルであるため、申込者が少なかったのは残念である。それでも学生にとっては高いと感じられたようである。値段の問題に加え、学生は中国よりヨーロッパに目がいったことが、主な理由と考えられる。

③ フランスH27年度春季（H27年度夏季は応募なし）

A) 実施概要

期 間：平成28年2月27日(土)～3月27日(日)（30日間）

研修機関：フランス サンテティエンヌ大学附属語学・文明国際センター（Le Centre International de Langue et Civilisation, Université Jean Monnet Saint-Etienne）

費 用：約45万円

プログラム費用（受け入れ先語学学校の登録料・授業料、フランス滞在中の健康保険料、宿泊費、文化アクティビティ参加費、グループ単位での空港送迎費）として、1900ユーロ（大学寮個室）あるいはホームステイ（朝・夕食込み）2300ユーロ。これに、各自手配の日本国内移動および日本・フランス往復旅費が加わる。

参加者数：2名（人文社会科学部）

渡航前ガイダンス：1月12日

プログラム内容：

①フランス語短期集中講座：受講生は、個別面接を含むクラス分けテストを受け、個別カルテが作成されるとともに、それぞれのレベルに合ったクラスに配置される。月曜から金曜まで、受講時間数は週25時間、4週間での総受講時間数は100時間。フランスの文化や文明をも学べるよう、授業では、広告、メディアの記事、ビデオ、文学作品など、実際の資料を用い、多様な言語活用シーンを想定して、コミュニケーションを重視したアプローチをとっている。到達レベルを記した証明書を、プログラム終了時に発行。

②文化・スポーツアクティビティ：一日または半日のさまざまなアクティビティや社会見学などを企画。

B) 短期語学留学の新設の狙いと成果、課題

本プログラム新設の狙いは、研修機関として質の高い機関への短期学生派遣を、学内の運営コストを抑えながら実施することで、短期の語学留学プログラムの選択肢を広げることにある。

平成27年度夏季に開始したこのプログラムは、フランス政府による公式機関「フランス政府留学局 Campus France」パリ本局が提供するもので、開設されると同時に本学でも募集を開始したが、派遣先の大学付属語学学校が、政府公認の品質 Label « Qualité FLE » の認定を受けており、教育と設備の質の高さが認められている点で研修機関として信用できるとともに、フランスの大学を体験できるという魅力がある。また、プログラムへの申込み手続きは、学生個人ではなく大学が Campus France との間で行うことから、大学として学生の海外渡航が把握できるとともに、学生においては、リヨン空港に到着・出発時の、グループ単位での「送迎」サービスが含まれているため、初めての海外留学を経験する場合であっても、大学教職員等の引率なく学生個人で研修先に出かけることができる。よって、学生が安心感を持って留学に応募できるとともに、引率不要により学内の運営コストを抑えながら短期留学先の拡大を実現した。

参加学生から下記の感想が出されているとおり、留学の成果も実感されている。

- 日本の授業と比べると全体的に聞き取りや話すことに重点を置いており、実際に留学前より格段に聞き取りができるようになった
- クラスの学生との会話は全てフランス語なので、日常的にフランス語を使う環境ができた
- 授業後の学校主催のアクティビティでは、博物館や小学校、牧場を訪問したりするなかで、一つに日本語を学んでいる高校生と交流するものがあり、とても貴重な体験だった

今後の課題としては、プログラムを大学の単位として認定できるようにすることである。これにより、さらに多くの学生が参加することも期待できる。

4. 夏季短期留学

8月の1-2週目から3週間、アメリカ・ネブラスカ大学オマハ校（参加者10名）、カナダ・アルバータ大学（参加者19名）、韓国・朝鮮大学校（参加者6名）の3つの夏季短期留学が実施された。例年に比べ、アルバータ大学の参加者がやや少なかった。ネブラスカ大学については先方から日本の他大学と合同で実施したい旨の申し出があったが、結局応募には至らず、例年通り静岡大学のみの実施となった。また、今年度よりネブラスカ大学での研修のあとにカリフォルニア訪問を追加するなどして、より魅力的なプログラムを目指した。

5月26日、6月16日及び7月7日には参加者を対象とした3回の説明会を実施した。説明会では、スケジュールや手続き・準備等の説明及び留学経験者からのアドバイスや海外安全のための知識等についてのガイダンスを行った。また、7月21日には静岡キャンパスで結団式が行われた。

夏季短期留学参加者は語学研修や文化体験、ホームステイ、旅行など様々なプログラム

を満喫して無事帰国した。

なお、ネブラスカ大学及びアルバータ大学の夏季短期留学については、全学教育科目の英語科目「英語海外研修A」「英語海外研修B」として単位化され、24年度以降入学者はこの科目を取得することができた。ネブラスカ大学・アルバータ大学参加者のうちの23年度以前の入学者および韓国サマースクール参加者については、従来どおり各自の申請にもとづき、全学教育科目の英語科目・韓国語科目（2単位）を認定した。

英語海外研修については、現地での英語の成績に留学前の目標やその成果及び新たな目標等を含む報告書によって成績を決定した。その報告書の一部はセンターホームページに公開されている。

夏季短参加者には帰国後、留学生支援ボランティアや留学プログラム、ABP副専攻などの情報提供を行った結果、それぞれに複数の参加者が参加しており、今年度も多くの学生が留学の成果を活かして次のステップに進んでいる。

5. 協定校の短期研修プログラム：松田

当該期間に下記の協定校短期プログラムの募集があったが、本学から参加学生はなかった。

○チェコ・マサリク大学 サマースクール

「World in Transition and Central European Transformation」2016年6月19日～7月9日

「US Foreign Policy in Central and Eastern Europe」2016年6月12日～7月4日

「International Relations and Threats to Global Security」2016年6月26日～7月16日

「Central Europe-A Cauldron of Modernity」2016年6月20日～7月7日

6. 海外留学フェア

平成27年度後期は10月15日(木)に静岡キャンパス、10月22日(木)に浜松キャンパスで、28年度前期は4月21日(木)に静岡キャンパス、4月28日(木)に浜松キャンパスで実施した。前後期ともに第1部では全体的な説明及び留学経験者によるパネルディスカッションを行い、第2部ではプログラム・協定校ごとにブースを開設し、留学生を交えて個別相談を行った。参加者は26年度後期静岡キャンパス43名、浜松キャンパスは21名、27年度前期は、静岡キャンパス56名、浜松キャンパスでは29名と、浜松キャンパスの出席者が増加傾向にある。

7. TOEFL 説明会及びTOEFL 勉強会・TOEFL ITP

海外派遣推進を目的として、TOEFLの試験情報の提供及び学内受験体制の整備に努めている。平成28年度は前年度から引き続き、年度当初に学内で開催するITP（TOEFL団体受験）の年間実施日程（年間4回）を定め、学内に周知をすることで、各学生が留学予定に合わせて計画的にITP受験をすることができるようにした。また、TOEFL日本事務局の国際教育交換協議会（CIEE）の担当者を招いたTOEFL説明会を2回、大学教育センター英語教員によるTOEFL勉強会を静岡キャンパスにて1回実施した。

● ITP TOEFL

第1回：2016年 5月26日(木)、第2回：2016年7月28日(木)

第3回：2016年11月10日(木)、第4回：2017年1月19日(木)

● TOEFL 対策説明会

2016年5月19日(木)、2016年12月15日(木) 14：30～16：00

● TOEFL 勉強会（静岡キャンパス）

2016年6月9日(木) 13：30～15：00

8. VSCP（Visiting Students Certificate Program）説明会実施

カナダ・アルバータ大学で行われている語学研修と専門科目の単位取得を組み合わせたプログラムであるVSCPの説明会がアルバータ大学Gretchen Phillips氏を迎えて平成27年12月3日(木)に開催された。

27年度前期派遣留学生は11名（27年5月開始6名、7月開始2名、9月開始3名）である。

9. 刊行物

- 学生交流報告書
- 「静岡大学からの海外留学」(留学ガイドブック)
- 「静大からの海外留学」(留学パンフレット)
- 夏季短期留学ガイドブック